

特集

米の消費拡大・販売促進にむけて

～やっぱり“ごはん”だね!和食の主演は!～

米穀部



季節をめぐる

四季折々

「十二月」

十二月の異名 | 師走(しわす)/除月(じよげつ)/親子月(おやこづき)/春待月(はるまちづき)
年満月(としみつづき)/雪月(ゆきづき)

12月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

12月の行事・祝日

23日(火・祝) 天皇誕生日

24日(水) クリスマスイブ

25日(木) クリスマス

31日(水) 大晦日

とうとう、年の瀬。気ぜわしく動きながらも、ふと「今年一年、どんな年だったか」と振り返り、来年はどんな年になるだろうかと一瞬、立ち止まる。十二番目の月は年から年への架け橋的な位置にあり、クリスマスというイベントもあり、忙しさにぎやかさが混ざり合う特別な雰囲気がある。

「心を亡くす」と書いて「忙」とはよくできたものだと感心する。忙しいを言い訳にするのは格好が悪い。時におのれの立ち位置を確認し、人に寄り添うことを忘れないようにしたいと思う。人はひとりでは生きていけない。誰かが困っているとき、「よき隣人」でありたいと、大震災を経験し、差しのべられる他県からの厚意や善意に胸が熱くなったあのときの思いを忘れまい。宗教や信心を持たなくとも、十二月は世界すべてが平和でありますようにと、祈るのにふさわしい月であるように思う。

純情産地発
クララ
vol.785

KLARA

2014
12

タイトルのKlara (クララ) は、宮沢賢治の手帳にのしるされている言葉で、エスペラント語で「晴」「暖かい」を意味します。全農の未来がそして世の中の全てが、明るく晴れやかにという願いが込められています。

contents

季節をめぐる 四季折々	02	純情むすめ活動記	09
特集		農業勇士の熱き情熱「AGRICULTURE!」	10
米の消費拡大・販売促進にむけて	03	NEWS ワイドアングル	12
細胞イキイキ、老化を遅らす“応援レシピ”		イーハトーブの担い手便り	14
「いただきま〜す!」	06	純情人	15
みんなの分教場	07	インフォメーション	15
各部発直便 TOPICS	08		

みんなの力で!



がんばろう!岩手
純情産地いわて

はじめに

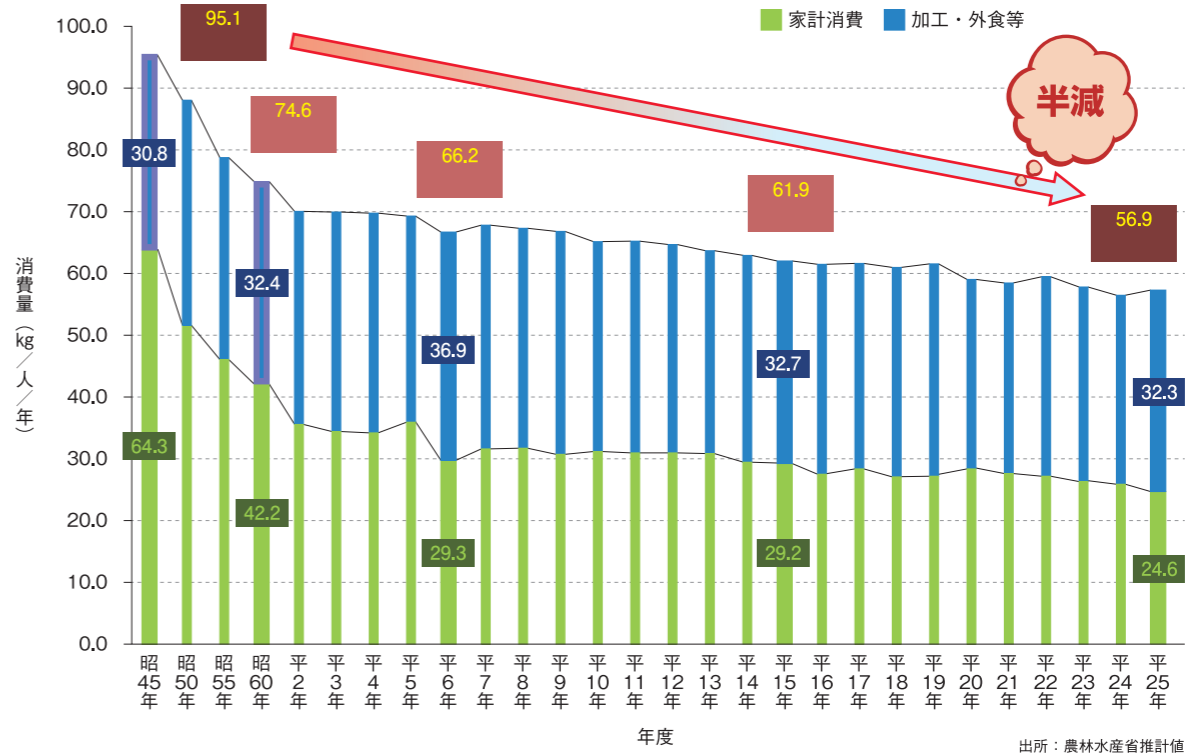
国産米は、過去に類を見ない需給緩和の波にさらされており、この状況を打破するため、積極的に米の消費拡大を広くPRしています。

いわての美味しいお米をPRするため、積極的に、キャンペーン、CMを展開し、各種イベントにも参画しています。

お米の消費量

国民1人・1年当たりの米の消費量は、高度成長期以降「食の欧米化」により、急速に減少、昭和40年の消費量(kg/人・年)は112kgでしたが、昭和60年には75kgに減少しました。その後も、食生活の外部化、多様化等の変化により、ほぼ一貫し減少を続け、平成5年は69kg、平成25年は57kgと減少しています。このように、昭和40年と比較すると半減しており、家庭でご飯を食べる機会は、さらに大きく減っています。

昭和40年111.7 国民一人当たりの米の年間消費量(家庭内と加工・外食別)の変化



和食の見直しごはんの力

もともと日本人は、稲作文化、和食により進歩してきたので、一汁三菜を基本にした地産地消

4. 小・中学生への食育啓蒙

1) 2016岩手国体に向け少年少女スポーツを応援

・ ことしもアスリート

・ 岩手県ミニバスケットボール交歓大会

5. 消費者と生産者の交流・体験イベントの開催

1) 日本生活協同組合との田植え、草刈、稲刈り体験交流

2) 県内スポーツ大会の協賛

・ 銀河100kmマラソン

・ アマチュアレディースゴルフトーナメント

・ ビッグブルズ

2) 全国量販店との農作業体験交流

・ イオングループ、ユニーグループ、関西地区量販店

3) ABCクッキングスタジオ田植え・稲刈り体験ツアー

おわりに

岩手の純情米が丹精をこめて作った自慢のお米、今年も、とっても美味しくできました！みんなで食べよう！ PURE RICEで、もっとHEALTHYに、もっとHAPPYに、そして、明るいFAMILY、明るいFUTUREに!!そんな思いを伝えていきます。



ABCクッキングスタジオ稲刈り体験ツアー

恋するおコメプロジェクト 世界の恋愛パワースポットツアープレゼントキャンペーン

「いわて純情米」の販売促進活動

消費者に「いわて純情米」を購入し食べてもらう機会を創出することで、「ごはんを食べる」という基本的な行動を呼びかけ、米の消費拡大をはかっています。主な取り組みを紹介します。

1. 全国展開キャンペーン

(1) 恋するお米プロジェクト継続展開中

「お米で日本の女性をもっときれいに」をキーワードに、より多くの女性に、「ごはんを食べたい、そんな願いを込めたプロジェクトです。選べる！世界の恋愛パワースポットツアープレゼントキャンペーン」

が、一番からだに良いといわれています。和食の無形文化遺産登録を契機に、日本人の身体にあった「ごはん」の良さと力を見直していきましょう。

みんなの分教場



営農対策部 営農技術課
技術主管
菊池 利行

JA全農式 トロ箱養液栽培システム



定植を待つトロ箱「プラスBOX」1箱に2株を定植する

2. 基本構成
(1) 専用発泡スチロール箱「プラスBOX」
31cm×37cm×25cmの立方体。自由な設置や撤去が可能。発泡スチロールであることから根部に対する断熱性や保温性に優れています。また、土壌病害など連作障害発生地でも導入が可能です。

1. 「ういずOne」
「ういずOne」は全農が開発した隔離床方式の養液栽培システムです。発泡スチロールの栽培槽を使用。水稲育苗ハウスの跡地利用や遊休ハウス、また果菜類への転換を検討されているハウス向けのシステムとして開発されました。

- 4. 導入事例**
- (1) 宮城県「JA南三陸」
津波による塩害回避のため導入。ミニトマトを栽培しています。
 - (2) 山形県「JA山形市」
水稲育苗ハウスの活用として導入。中玉トマトを栽培しています。
 - (3) 秋田県「JAおぼん」
平成二十六年年度に「メガ団地」でトマト

3. 「ういずOne」の特徴
隔離床であることから、土づくりが不要となるほか、灌水施肥栽培のため草勢管理も容易となっています。また、大掛かりな電気水道工事が必要としないので低コストで導入することができます。

- (2) 液肥混入装置「ミニシステム」と灌水資材
液肥混入器「ミックスライト」は水流圧で肥料を混合し、完全自動で点滴灌水をおこないます。乾電池で動作(新品のアルカリ乾電池で約3千回の開閉が可能)するため停電時でも安心なほか、電気工事が不要となります。なお、このときある程度の水压が必要となります。
- (3) 隔離栽培用液肥
排水と通気性確保のための大粒パーライトと園芸培土の組み合わせになります。
- (4) 隔離栽培用液肥
専用の液肥を使います。省力的な一液式とランニングコストの安い二液式の2種類があります。



「ういずOne」で生育中のトマト



液肥混入装置「ミニシステム」中央が液肥混入器「ミックスライト」

を試作。平成二十七年年度から本格栽培の予定です。
岩手県では平成二十五年に農業研究センターに導入されているほか、平成二十六年年度には水稲育苗施設の有効利用や土壌病害対策として青森県三戸で導入され、トマトとミニトマトが栽培されました。
全農いわてでは地元JAや県と連携しながらこのシステムの普及とトマトの生産安定に力を入れていきます。



りんごソースがけ
ポークソテー
1人分
295 kcal

整腸作用、免疫力UP、 細胞が元気になるりんご料理 りんごソースがけポークソテー (マシュマロかぼちゃ添え)

材料(4人分)

豚肉(ソテー用80g)4枚、塩・黒こしょう少々、油適量、りんご1個、A(バター20g、赤ワイン100cc、水200cc、醤油大さじ1、砂糖大さじ1) かぼちゃ250g、B(砂糖大さじ1、スキムミルク大さじ1)、マシュマロ4個

作り方

- ①りんごは8等分し、芯を取ったら2mm厚さのいちよう切りにして塩水に放す
 - ②バターを溶かして①を炒め、Aを加えて煮詰める
 - ③肉に塩・こしょうをしてソテーする
 - ④③を皿に載せ、②をかける
 - ⑤マシュマロかぼちゃを添える
- 「マシュマロかぼちゃ」の作り方…①かぼちゃを適宜に切り、皮を取り、蒸す。②①にBを加える。③10cmほどに切ったラップの上にかぼちゃを広げてマシュマロを載せ、茶巾絞りにする

栄養ポイント

りんごは高血圧やがん予防、便秘や気管支炎の改善、コレステロール低下などの働きをしてくれる「優れた果物」である。豊富に含まれる食物繊維(ペクチン)は整腸作用があるので、便秘解消やコレステロールを下げて動脈硬化を予防。ペクチンは果肉より皮や皮に近い部分に多く含まれているので、よく洗って皮ごと食べるのがよい。カリウムも多く、これは体内のナトリウムを尿と一緒に排出する働きをして、高血圧予防効果。リンゴ酸やクエン酸は体の疲労を解消する。抗酸化物質のポリフェノールも多く、動脈硬化やがん、炎症、アレルギー予防など、免疫が活性化して細胞を元気にする。
【焼きりんご】材料…りんご1個、無塩バター小さじ1/2、A(グラニュー糖大さじ1、シナモンパウダー少々、ラム酒漬けレーズン少々、有塩バター小さじ1/2)。作り方…①りんごを塩水でよく洗い、下部のくぼみを少し切り取って上部をくり抜き、芯の部分もくり抜く。②皮全体を竹串で刺して穴を開け、溶かした無塩バターを塗る。③くり抜いた部分にAを入れる。④大さじ1のお湯を入れたパットにりんごを入れ、170℃のオーブンで45分間焼く。
【りんごサラダ】材料…りんご、大根、レタス、パプリカ、ペペーリーフ、ドレッシング(オリーブオイル、塩、こしょう、りんご酢)、生ハム

1日1個のりんごは医者を選ばざる

このことわざは、りんごの「栄養価の高さと有益な働き」を端的に言い表したものだ。果物はビタミン類や食物繊維が多いので、1日200gを目安に摂取するように勧められているが、果物の食べ過ぎは中性脂肪が高くなってカロリーオーバーになり、体に良くない。200gの果物とは、りんごなら1個、バナナは2本、柿は2個、梨は1個、ぶどうは1房、オレンジは2個、キウイフルーツなら2個に相当。適量を継続して食べることが健康につながる。



料理監修/高橋ヒサ子
管理栄養士、健康運動指導士
特定保健指導実践者
いわて糖尿病療養指導士
HACCP(食品衛生危害分析)指導者
(公社)岩手県栄養士会理事

品質が高い「りんごの女王」

りんごはバラ科リンゴ属の樹木になる果実で、日本には明治時代の初期、アメリカから導入されました。その後、日本の気候風土に合わせた品種改良が盛んに行われて、いまやさまざまな品種のりんごが生まれ、出回っています。りんごの品種は世界的には数千〜一万種もあるといわれていますが、現在、主に栽培されているのは一〇〇種ほどです。日本で一九三〇年代後半に「国光」と「デリシャス」を交配して育成し、一九六二年に品種登録された「ふじ」は今では世界各地で栽培されるようになり、世界で最も生産量が多い品種になりました。日本では、りんご収穫量の半分以上を「ふじ」が占めています。それは果汁が豊富で味のバランスが良く、甘味と香りがしっかりしていること、シャキシャキと心地よい歯触り、蜜が入りやすく、賞味期限が長い(高い貯蔵性)ゆえです。
選ばれた果実だけを収穫し、高い出荷基準をクリアして市場に送られるのが「いわてのりんご」。その美味しさが全国的に高い評価を受けている理由は、糖度が高いこと(15〜16%)。太陽の光を十分に浴びて育つように、完全に熟すまで木からとれません。また、一日の寒暖の差が大きい岩手の気候が、色づきの良い、美味しさが実に十分蓄えられるりんご作りの好条件となっています。

細胞イキイキ、老化を遅らす「応援レシピ」

「ただいまおはよう！」

各部から最新情報をピックアップいたします。

各部発直便

TOPICS

トピックス

株式会社 岩手畜産流通センター

第11回いわちく感謝デー(11月8日・9日)

年に一度のお肉のフェスティバル「いわちく感謝デー」が今年も開催されました。当日は牛肉・豚肉など様々なお肉が大感謝価格で販売され、売り切れが続出するほどの賑わいでした。開催当日は天候にも恵まれ、たくさんのお客様にご来場いただき大盛況の二日間となりました。

いわちくでは今後とも、産地食肉センターとして安全・安心な地元「いわて」の食肉を、お客様へ感謝の気持ちを忘れずに、お届けしていきます。



感謝デー会場の様子



大阪米穀販売センター

トラベルガールズフェスタ~もっと旅して、もっとHAPPY!~

旅をテーマとしたトラベルガールズフェスタが10月14日に大阪で開催され、いわて純情米のプロモーションのために協賛しました。全農いわてのブースでは、新米ひとめぼれの試食、ひとめぼれ恋するおコメの抽選会、新米オープンキャンペーンの告知、パネルによるいわて純情米の美味しさのPRをおこないました。

関西圏の女性をターゲットとし、会場には約800名に会場いただきました。新米ひとめぼれを試食していただくと、目を丸くして「美味しい!」、非常に好評でした。

関西でいわて純情米を購入できる量販店の問合せもあり、興味を持って頂けたと感じています。また、試食頂いた方に、ひとめぼれ恋するおコメ2合パックをプレゼントしました。これからもいわて純情米の美味しさを消費地の方に知ってもらう取り組みを続けていきます。

オープンキャンペーンでは恋愛パワースポットの海外旅行を景品として、いわて純情米の認知拡大をはかります。詳細はこちらからご覧ください。

恋するおコメプロジェクトHP
<http://www.koikome.jp/>



トラベルガールズフェスタ会場の様子

めんそ〜れ!いわて純情米を沖縄でPR!



2014いわて純情むすめ
橋本 和香菜

10月7〜10日の4日間、岩手県より遠く離れた地、沖縄で「琉球イオン・盛岡デー」のイベントに参加させていただきました。岩手県産の「ひとめぼれ」「どんぴしゃり」の2つのお米を販売しました。「ひとめぼれ」はとも名が知れていて、何人ものお客さんが、「美味しい」「毎日食べているよ」と声をかけてくださいました。岩手県産のオリジナル品種「どんぴしゃり」は、見たことも聞いたこともない方がほとんどでしたが、実際に炊きたてのごはんを試食していただくと、ほぐり甘みと粘りの特徴をPRすることができました。岩手と沖

笑顔が
はじける

純情むすめ 活動記



縄、場所も特産物も異なった両者ですが、このようなイベントを通じて岩手の良さを伝えつつ、沖縄の素晴らしいと感じ取れた4日間でした。早くも12月となり、いわて純情むすめとして活動を始めて半年が経とうとしています。岩手県内外のイベントに参加して、全農職員の方々や生産者、消費者の方々との出会い、たくさんの方々の貴重な経験をいただきました。いわて純情むすめとして活動させていただけることに感謝しながら、来年もさらに、岩手県の美味しい農畜産物をどんどん全国のみなさまに紹介していきたいと思っております。





Profile

武蔵 卓也(むさし たくや) 36歳。

盛岡市大田で農業を営む。

トマトや水稲、多品目野菜を手掛ける。有機肥料、減農薬での栽培にこだわり、ただ甘いだけのトマトではなく、女性や子供に好んで食べてもらえるような「安全、安心さらに美味しいトマト」の栽培を目指している。愛情たっぷりのトマトは、食べた人みんなを幸せにする。



ハウスでの作業の様子



仕事も遊びも全力で楽しみます



JA 全農いわては生産者と消費者を
安心して結ぶ懸け橋になります。

今回のインタビュー内容はJA全農いわてウェブサイトにも掲載されています。

詳しくはJA全農いわてホームページで。



食べる人を幸せに、そんな愛情が籠ったトマト

ストレス発散は…

「仲間と湖に行つて遊ぶジェット・スキーです。シーズンは限られますが、コースもない大きな場所を、自分が船長になって走る感覚は何とも言えません。最近は湖の周りにポイ捨てされたゴミが多いので、遊ぶ前に仲間とゴミ拾いなんかしています。遊ばせてもらうんだから、それくらいは当然です。普段がらんばつて仕事した分、休日は思いっきり遊ぶんですよ。ラジコンも好きなので、そういった遊びもストレス発散になります」と、嬉しそうに語る表情は少年のようでした。

農家
武蔵 卓也さん

食卓へ届ける、 生産者の愛情



農業勇士の熱き情熱

AGRICULTURE!

**目指すは、
食べた人みんなを幸せにするトマト**

盛岡市大田で水稲やトマトをはじめとする多品目野菜を作っている農家の担い手で、十八歳で就農し、今年で十八年目になります。卓也さんのこだわりは有機肥料と減農薬栽培。例えばトマトは、ただ甘いだけのトマトではなく、女性や子どもにも好んで食べてもらえるような「安全・安心、さらに美味しいトマト」の栽培を目指しています。

雨よけ栽培のトマトは糖度が高く、酸味との絶妙なバランスが魅力の、食卓を飾る代表的な野菜。一本の苗からたくさんの実がなります。愛情をたっぷり注いで育てたトマトを、卓也さんは毎日手摘みしています。

**横のつながりを大切にすることで
発展していく地域の農業**

「作物の出来・不出来は天候も影響するけれど、大きく影響するのはやはり自分の努力。頑張れば頑張った分、それなりにプラスになって自分に返ってくるのが楽しい」と卓也さん。また、周囲にいるいろんな農家の人との情報交換にも楽しさを感じる、と言います。

「うちでは、こうだった」「自分の所では、これが上手くいった」「これについては、どうだった?」と、周りの人に教わりながら、自分の農業をより良いものにして行ける

とも。

この地で先祖代々、農業をやってきた家に生まれ育ち、地域を支える農業を、こまごま成長させ、大規模な経営を成功させてきた祖父と父親を「とても尊敬している。その人たちに負けないように、将来は自分も農業を盛り上げていきたい」と、力強く語ります。

第11回宮城全共での日本一目指して

11月26日(水)

第11回全国和牛能力共進会決起大会

公益社団法人全国和牛登録協会岩手県支部は、花巻市野田の花巻農協営農指導拠点センターにて、第11回全国和牛能力共進会決起大会を開催しました。

この決起大会は、平成29年9月に宮城県で開催される第11回全国和牛能力共進会(全共)に向けて生産者、関係機関が一致団結し、更なる取り組み強化をはかるため開催され、生産者約400名、各関係機関代表が出席しました。

和牛能力共進会岩手県対策協議会の田沼征彦会長は「いわて牛のブランドは全国的にも有名になり多くの消費者に支持して頂いている。宮城県で開催される全共に向けて、生産者・関係機関一丸となって取り組んでいただき、上位入賞をめざしていただきたい」と挨拶をしました。

会場では、全農宮城県本部の安部俊也畜産部次長から第11回全共宮城大会の取り組みや、全共を主催する全国和牛登録協会の山口由紀総務課長から全共が果たす役割などについて講演がおこなわれ、全共への理解と意識を高めました。

第11回全共宮城大会は、仙台市夢メッセみやぎにて平成29年9月7日から11日まで開催される予定。開催テーマを「高めよう生産力 伝えよう和牛力 明日へつなぐ和牛生産」と掲げ、全国39道府県から選りすぐりの種牛と肉牛が集められ、日本一をめざします。



全農宮城県本部 安部俊也 畜産部次長より第11回全共宮城大会についての取り組みが説明されました

県内の若手酪農家の交流をはかる

11月18日(火)

岩手県 若手酪農家の集い ～パートV～

JA全農いわて酪農課は、盛岡市マリオスにて若手酪農家の集いを開催しました。

このイベントは岩手県内の若手酪農家40歳以下を対象にしたイベントで、今回で5回目の開催。県内外の酪農情勢や先進事例を学び、他の若手生産者との交流を深めることで、自身の経営内容や生産技術の向上をはかっています。

第5回の本イベントでは、先輩酪農家、乳業者、獣医師など各分野から講師を招き、酪農経営や肥育に関する知識や技術、マーケットの情勢や酪農課が担う役割など、多角的な講演がおこなわれました。

参加者は、自身の酪農経営・技術の向上に生かそうと、真剣な眼差しで講演を受けました。



中六角保広氏(葛巻町酪農家)の講演の様子

安全・安心で美味しい豚肉を小中学校給食へ

11月18日(火)

JAいわて中央養豚部会 学校給食食育イベント

JAいわて中央の養豚専門部会は、盛岡市都南地域にて学校給食に豚肉を提供する食育活動をおこないました。この活動は学校給食に地元豚肉を使用することで、安全・安心・美味しい地元食材を舌が感じてもらう、生産者から養豚について学ぶ交流の場として開催されました。JAいわて中央管内で肥育された豚肉約200キログラムを、都南地域の小・中学校計13校の給食へ無償提供しました。生産者の阿部秀夫部会長、七木田一也副部会長とJAいわて中央、JA全農いわて職員らが盛岡市立見前小学校を訪問し、5年生の3クラスに分かれて、給食と一緒に味わいました。生産者の話を聞きながら給食を味わった生徒達は、

「すごくおいしかった。豚を育てるのはとても大変だという話を聞いたので、これからは毎日感謝して食べたい」と話しました。



給食を食べながら、阿部秀夫部会長の話を熱心に聞く生徒達

岩手の美味しいもの勢ぞろい

11月2日(日)

ヤオマサ「いわて・みちのくフェア」

JA全農いわては、神奈川県小田原市のスーパーヤオマサにおいて「いわて・みちのくフェア」を開催しました。このイベントは今年で9年目。岩手の美味しいお肉やお米を始め、「純情産地いわて」を地域の皆様へPRしました。会場では試食販売や、JAいわて花巻による餅つきイベントなどがおこなわれ、岩手県産食材の美味しさを食べて感じてもらいました。

また、いわて牛サーロインステーキや岩手県産ひとめぼれなどの豪華賞品が当たる、純情産地いわて大抽選会もおこなわれました。来店されたお客様からは「毎年このイベントを楽しみにしている。岩手は美味しいものがたくさんあるので、食べることで岩手を支援していきたい」とフェアを楽しみにされている声もありました。



JAいわて花巻による餅つきイベントの様子



来場者先着200名様に岩手の花がプレゼントされました

おいしい「いわて牛」食べて元気一杯!

11月28日(金)

いわて牛・いわて短角牛学校給食の日

JA全農いわては、県内小・中学校など約52,200人を対象に、いわて牛・いわて短角牛学校給食の日イベントを開催しました。この取り組みは今年で2年目。地元の美味しい牛肉を食べ関心を持ってもらおうと企画しています。

花巻市内の新堀小学校には、地元生産者の高橋一広氏、JA全農いわて畜産販売課職員、岩手県庁流通課職員などが訪問し、4年生を対象にした、岩手県産肉牛に関する授業をおこないました。その後の給食交流会では、いわて牛を使ったチンジャオロースーが振る舞われ、給食を食べた生徒は「とってもジューシーでおいしい」と口いっぱい頬張りながら喜んでいました。

地元生産者の高橋一広氏は、「安全・安心で美味しいいわて牛を育てています。生徒の皆さんは、美味しいいわて牛を沢山食べて、元気に大きくなってください」と話しました。



岩手県産肉牛に関する授業の様子



「いわて牛」を使ったチンジャオロースーは、子供達に大人気でした

純情人

JA全農いわての
じゅん じょう びと



趣味・特技

趣味：読書、猫観察、エコー検査
特技：目覚まし時計が鳴る前に起きること

現在の担当業務

酪農家様が生産される牛乳の質を良くするような取り組みを、助成金や直接訪問し指導するなどの形でおこなう業務です。
乳牛は妊娠し分娩しないと牛乳を搾れないため、なかなか妊娠できない牛へ様々な角度(受精卵移植や定時授精、カウコンフォート(牛の飼ひ方)etc)から指導や技術提供をおこなう業務です。

これからどんな職員になってみたいか

私はまだ入会して間もないですが、全農若手県本部の業務は事務仕事が多く、農家様へ訪問する機会が多い職員は少ないように思われます。しかし全農の仕事の主体は農家様、農協様であるため、時間が許す限り農家様、農協様へ顔を出せるような職員になってみたいです。まだまだ獣医としても未熟ですが農家様のためになるような人物になれるように頑張りたいです。

畜産酪農部 酪農課
きむら けん
木村 健さん(30歳)

後編記集

12月、今年も「いわて純情プレミアム冬恋(はるか)」の販売開始が近づいてまいりました。
私は昨年初めて食べたのですが、箱を開けた時の香りの良さ、食べた時の歯ごたえ、そして蜜がたっぷり入ったその甘さ、その美味しさすべてに驚きました！今ではすっかり冬恋のファンです(笑)。

INFORMATION ~お知らせ~

大切な人への贈り物 産地直送JAタウン

JAタウンとは、JA全農が運営する、インターネットショッピングモールです。
「もっと近くに美味しいニッポン」をテーマに、JAタウンに出店するJAや全農県本部が、各産地で育まれた農産物や特産品を、インターネットを通じて消費者の皆様へ直接お届けします。また、なかなか購入できない全国の限定・希少商品やお歳暮・クリスマスなど季節に応じたイベント商品など、様々な企画も展開中です。ちょっぴり贅沢をして自分へのご褒美に、大切な人への贈り物に、あらゆるニーズにお応えします。是非ご利用下さい！

JAタウンHP <http://www.ja-town.com/shop/f/f0>

■岩手県出店
いわて純情館(JA全農いわて)
四国四県の広さに匹敵する岩手県の広大な土地にある豊かな自然と生産者の地道な努力により育まれた「純情産地いわて」の安全・安心で美味しい農畜産物を全国の食卓へお届けします。
味が自慢のJA江刺(JA江刺)
奥州藤原氏ゆかりの地より、お米では最高ランク「特A」の評価を受けた『江刺金札米』、りんごでは2014年サンふじ初競りにて1箱(特選10kg)100万円で取引された味と品質を誇っている『江刺りんご』をお届けします。

JAグループが運営するインターネット通販サイト「JAタウン」内にある「いわて純情館」では、12月17日まで「いわて純情プレミアム冬恋(はるか)」の予約を受け付けております。全国各地にいらっしゃる冬恋ファンの皆様どうぞご利用ください！
(岩本)



高橋組合長とTAC(左から高橋事務局、高橋代表理事、中軽米TAC、亀井TAC)



飼料用米収穫

イーハトーブの担い手便り

純情産地の創造者たち

「加工トマトを中沢農産の特産物に」

農事組合法人 中沢農産(八幡平市)
八幡平市で第1号の集落型農業生産法人の設立
農事組合法人中沢農産が所在している旧松尾村中沢地区は、水田と畑が混在した水田・畑作地帯で、水稲に加えてりんどうやほうれんそうの園芸品目と畜産を組み合わせた複合経営がおこなわれており、八幡平市の南部に位置しています。
同法人は東北自動車道松尾八幡平ICから南西に2km、東八幡平の裾野に拓けた丘陵地域で水田・畑作物栽培に取り組み、平成19年2月に品目横断的経営安定対策事業に加入するため地域内農家15戸で、中沢営農組合を設立して営農活動をおこなって来たのが法人の母体となっています。
営農組合設立5年後の平成25年4月2日、法人化計画に基づき組合員19名で農事組合法人を設立、八幡平市での集落型農業生産法人の第1号として経営規模42畝で農業生産に取り組んでいます。役員は理事5名と監事2名で初代の代表理事に高橋金悦氏(64歳)が就任し、理事5名は全員オペレータとして生産活動の第一線で活躍しており、法人と組合員との良好な関係づくりに努めています。
畑作部門に加工トマトを導入
当地域は、東八幡平の山々を源とする川沿いに水田が拓けており、水田は10〜20㍍区画と小区画でその周辺を畑が取り囲み、水田率62%の農地を活用して任意組合当時から水稲に加えてソバ、小麦及び飼料用米を栽培して来ました。
法人事業2年度目にあたる本年から、複合経営の拡大と組合員の労働の機会をつくるために新



加工トマト収穫

に加工トマトの生産に取り組み始めました。栽培初年度でもあり1畝の栽培面積でもあることから、全農の担い手対策事業(集落営農組織、園芸栽培支援対策・1/4補助・30万円上限)を活用して、収量100kgの目標に対し93kgの実績を上げることが出来ました。法人として失敗は許されないう使命感で取り組んだことが成果につながりましたが、1ヶ月半の収穫期間の労働力確保など労務管理面で改善しなければならぬ点も多く、次年度以降の課題となっています。今年の米価の大幅な下落は農業経営体にとって大きな試練となっていますが、中沢農産の加工トマトの取り組みはこれまでの農業経営を変革してチャンスをつかもうとした取り組みとして評価させていただきます。加工トマトを法人経営の柱にしたいと考えており、「加工トマト」と言えば中沢」と言われるような、特色ある経営体づくりをめざしたいと高橋組合長に語っていただきました。

(農)中沢農産のこれからの活躍に期待
中沢集落は農家戸数33戸で農地が110畝(水田69畝、畑43畝)あり、高齢化や兼業化によって戸別農業経営の継続が困難となっていること、世代交代により農地の所有と利用の分離の考えが理解されつつあり、農地集積の受け皿としての法人の役割が重要となってきました。
現在、法人は42畝の経営面積の大半を農作業受委託により管理していますが、農地の面的な集積や簡易な基盤整備、農業機械利用や労働力の集約化が課題となっており、殊にも、財務基盤の弱い法人においては、より多くの農家の法人経営への参画と協力を得て、効率的で生産性の高い農業経営をめざして、水田と畑を活用した複合経営を確立していただくことを願っています。
法人の代表理事である高橋氏は、中沢地区自治会長、多面的機能支払協定集落代表や八幡

農事組合法人 中沢農産の経営概況

- 代表理事：代表理事組合長 高橋金悦
- 設立：平成25年4月2日
- 住所：八幡平市野駄1地割72番地
- 組合員：19戸
- 営農規模：水稲25.8ha 小麦1.5ha
そば6.5ha 飼料用米7ha
加工トマト1ha
- 施設機械：事務所1棟、トラクター1台、播種機1台、ブームスプレーヤー1台



TAC活動(事務室)

あなたにお届けします初冬の恋



冬恋



いわて純情プレミアム

FUYU KOI

 JA全農いわて・岩手冬恋研究会



私たち全農グループは、
**生産者と消費者を
安心で結ぶ懸け橋**
になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組めます。